

指定管理者管理運営状況評価書

評価対象施設	埼玉スタジアム2002公園
指定管理者	公益財団法人埼玉県公園緑地協会
評価対象年度	平成29年度
施設所管課所	公園スタジアム課

評価項目	細項目	評価	コメント
利用者の平等な都市公園の利用の確保	平等利用の確保	A	・条例に基づき定めた供用日、供用時間どおり実施した。 ・休園日、利用時間、利用料金を、管理事務所入口、クラブハウスに掲示した。また、利用料金の一部を除きホームページに掲載した。
	利用料金の適切・公平な徴収	A	・適正な料金徴収を行うとともに、徴収漏れが無いよう現場確認を実施した。また、承認された納期限どおりに徴収し、収入漏れはない。 ・利用料金の減免を適切に判断した。
	苦情・要望等への適切な対応	A	・苦情・要望等の内容とその対応について全て記録し、県へ報告した。また苦情等には迅速に対応するなど、適切に対応した。ただし、迷惑メール大量送信時における県への報告については迅速性・正確性を欠く部分があった。 ・利用者ニーズの把握を行うため、ツアーの参加者にアンケートを行いニーズの把握に努めた。 ・浦和レッズ、埼玉県サッカー協会、日本サッカー協会とも苦情・要望等の情報を共有した。
関係する法令等を遵守した適正な都市公園の運営	法令等の遵守	A	・注意看板を必要に応じ追加設置し、園内巡回時に利用者へ声掛けをするなど安全確保に努めた。さらに防犯カメラで異常がないかチェックした。 ・審査基準に従い、各施設の利用許可等を適切に行った。 ・建物内を原則禁煙にして防止措置を講じた。また、試合開催時も指定場所での喫煙を、主催者を通じて周知徹底した。
	適切な各種手続き	A	・基本協定及び公園管理マニュアルに基づき修繕や委託業務の承認申請、報告等を適切に行った。
都市公園の設置目的を効果的に達成した効率的運営	管理目標の達成	A	有料施設利用人数(目標130万人以上 実績142万人)など目標4項目のうち3項目は目標値を大きく上回り達成している。 残り1項目である紙カップ回収率の割合も浦和レッズ戦等Jリーグ主催試合は平均値(約60%)で目標を達成している。 ただし、回収率の著しく低い(約47%)国際試合の開催が多かったという特殊事情により、全体では目標値を下回った(52%)。
	事業の実施	A	・概ね事業計画どおり事業を実施した。 ・国際試合では、協会本部から電気主任技術者の派遣を要請するなど、管理執行体制の確保に努めた。
	安全性の確保	A	・毎日の巡回点検、月1度の詳細点検等、適切な点検を実施した。 ・施設、設備で不具合のあった場合は、速やかに修繕を行うなど、適切な維持管理を実施した。
	防災等適切な管理の履行	A	・大規模試合の主催者・県警等関係者の協力を得ながら訓練を実施した。
指定管理業務を行う経営基盤	収支の適正な管理	A	・会計システムにより収支を明確に管理し、預金口座との突合を行った。 ・小口現金の有り高確認を毎日行った。
	事業計画との整合性	A	・会計区別に適切な会計処理を行い、会計書類をセキュリティが確保できる倉庫に保管した。 ・施設賠償責任保険・火災保険等必要な保険に加入した。
その他	個人情報の適切な管理	A	・(一財)日本情報経済社会推進協会が認定するプライバシーマークを取得し、管理マニュアルに沿って適切に管理した。
	県内中小企業及び環境への配慮	A	・専門技術を要する業務以外、県内中小企業に依頼した。 ・通常日の管理廊下の消灯を徹底するとともに照明器具の人感センサーを導入するなど、電力量の抑制に努めた。 ・試合時の紙コップのリサイクル事業を実施し、廃棄物の削減に努め、適正な方法で廃棄物の処分を行った。 ・エコマーク認定商品等の物品購入をした。 ・農薬や除草剤を適切に使用した。
総合評価		A	事業計画に沿った施設の運営管理及び適切な会計処理により利用者サービスなどの指定管理業務を着実に実施した。

特記事項	特に評価すべき点	・大規模試合誘致の努力により、平成29年度の有料施設利用人数が目標の130万人に対し実績が142万人と目標を大幅に上回ったこと。 ・主体的な創意工夫のもと、パブリックビューイング等イベントを実施したこと。
	次年度に向けて改善が望まれる点	・エコスタジアムへの取組みとして、国際戦開催時における紙コップ回収率増加のための対策実施 ・危機管理情報を県へ報告する際の迅速性・正確性の向上